

農林水産商工常任委員会資料

(令和5年3月9日)

項 目	ページ
■ ホワイト物流推進運動に関する県内の取組について 【通商物流課】……………	2
■ 障がいの有無に関わらず「ともに働く職場づくり」の推進について 【雇用政策課】……………	3
■ 鳥取短期大学での観光人材育成に係る寄付講座の取組状況について 【産業人材課】……………	4

商 工 労 働 部

ホワイト物流推進運動に関する県内の取組について

令和5年3月9日
通商物流課

燃油・物価高騰や「物流の2024年問題（※1）」に適切に対応し、「ホワイト物流推進運動（※2）」に関連した取組を浸透させていくため、啓発セミナーや運送事業者と荷主企業（経済団体）が向き合う意見交換会を開催しました。

また、物価高騰を乗り越える物流効率化対策事業補助金（令和4年12月補正予算）を活用して、県内企業の事業形態や課題に併せて、物流効率化や労働環境の改善の取組が進められています。

※1 働き方改革関連法の「自動車運転の業務」への適用が令和6年（2024年）4月1日に予定され、時間外労働上限規制が強化される。人手不足の深刻化や、「モノが運べなくなる」事態の発生等が懸念されている。

※2 国民生活や産業活動に必要な物流を安定的に確保するため、トラック輸送の効率化や労働環境の改善を目的に国が進めている取組み。

1. 啓発セミナー、意見交換会の開催

(1) 物価高騰を乗り越える「ホワイト物流」推進セミナー

(ア) 日時 令和5年1月30日 10時～12時

(イ) 会場 鳥取商工会議所大会議室 ※オンラインでも配信

(ウ) 参加者 運送事業者、荷主（製造業、卸・小売業等）、経済団体等 50名

(エ) 内容

講演(1): 「トラック業界の抱える問題、ホワイト物流推進運動とは？」

講演者: 株式会社NX 総合研究所 常務取締役 大島 弘明 氏

講演(2): 「物流デジタル化のポイント、システム選定の進め方と注意点」

講演者: ascend 株式会社 代表取締役社長 日下 瑞貴 氏

事例発表: 「段ボール業界におけるホワイト物流への取組み」

発表者: レンゴー株式会社 パッケージング部門管理本部 部長 根本 篤 氏

(オ) 参加者の声

- ・ 物流の問題が、荷主にも大きくかかわっていることがよく分かった（荷主企業）
- ・ 商品の出荷に関して、より迅速に楽に行えるように工夫や改善を行いたい（荷主企業）
- ・ この20数年、運送業の運賃が全く上がらなかった理由が理解できた（運送事業者）
- ・ ハード面での物流改善事例やデジタル技術を駆使したビジネスモデルの抜本改善事例についてもっと知りたいと感じた（運送事業者）



(2) 「ホワイト物流」推進に係る運送事業者・荷主企業の意見交換会

(ア) 日時・会場

令和5年1月30日、31日（東中西部の商工会議所で計3回開催）

(イ) 参加者

商工会議所役員、トラック協会役員、国土交通省、関係団体など計30名

(ウ) 参加者の声

< ホワイト物流の推進 >

- ・ 運送会社への荷役作業押し付けの常態化など、運送業界の窮状を初めて知った（荷主企業）
- ・ 荷主の理解も得ながらパレット化など負担軽減が必要（運送事業者）

< 取引条件の改善 >

- ・ 長年の慣行を見直し、契約の書面化を進めないといけない（荷主企業・運送事業者）
- ・ 正当な対価は荷主へしっかり請求すること。改善、DXのためには、まずコストを認識することが大切（荷主企業）

< 取組の啓発 >

- ・ 製造・流通など他業界も巻き込んで全体で是正していくことが必要（荷主企業）



2. 「物価高騰を乗り越える物流効率化対策事業補助金」を活用した物流改善事例（県内運送事業者）

(1) 製造業と連携した保管・在庫管理（機械部品関連等の輸送・保管）

- ・ 自社倉庫に可動式の棚を導入し、荷役の効率化を目指す。
- ・ 保管可能量が増加するほか、荷役作業時に必要な作業範囲が減少し労働負荷が軽減される。

(2) 簡易冷蔵庫導入によるコールドチェーンの効率化（青果物等の輸送）

- ・ これまでの冷蔵トラックで配送先に間断なく輸送する体制を見直し、簡易冷蔵庫を新たに導入し、集荷した青果物を仕向地別に自社保管することで、作業効率化や人員配置に余裕ができる。
- ・ 品質を保持した状態でリードタイムが延長されることで、休日作業の減少、時期を捉えて出荷により荷主にも販売額増でメリットがあるなど、コールドチェーン全体の最適化を期待できる。

(3) 労働管理のデジタル化による「見える化」（水産加工品等の輸送）

- ・ デジタルタコグラフ（※）に連携する勤怠管理システムを導入。
- ・ 運転・駐停車など運転に関わる部分の把握だけでなく、出勤時刻、休憩時刻、荷役時刻、退勤時刻を一括管理できるようになり、荷待時間等の効率化を妨げている要素を「見える化」する。
※自動車運転時の速度・走行時間・走行距離などの情報をデジタルデータとして記録する運行記録計。アナログ式に比べ、PC連携により分析が容易にできるほか、GPSを搭載し位置情報を記録できる。

(4) 物流拠点の集約化による効率的な輸送と労働環境の改善（建築資材等の輸送・保管）

- ・ 新たに物流拠点を整備し、貨物を集約させることにより効率的な物流ルートを構築。
- ・ 既存施設についてもレイアウトも改良し、物流集約拠点と点在している集荷施設とのネットワークを効率的に結びつけることで作業効率を向上させ労働時間の短縮等を図っていく。

障がいの有無に関わらず「ともに働く職場づくり」の推進について

令和5年3月9日
雇用人材局雇用政策課

障がい者の就労及び職場定着を促進するためには、事業所内での相談体制の充実や障がいの特性、合理的配慮などについての理解促進が必要であることから、事業者が自らの取組の点検・改善を図るためのガイドブックと取組事例の紹介動画を作成しました。これらを活用して、障がい者が働きやすい職場づくりの促進を図ります。

1 ガイドブック「ともに働く職場づくり～障がいの有無に関わらず働きやすい職場を目指して～」

- (1) 発行年月 令和5年2月
- (2) 発行方法 電子媒体（とりネットに掲載）
- (3) 特徴

- 障がい者雇用を進めるためのポイントを大きく5つ（情報収集、業務選定、受入れ態勢構築、求人募集から採用まで、職場定着）に分類し、個別に項目を設定しています。
- 巻頭にチェックリストを掲載し、まずは事業所内での対応状況を確認できるようにしています。
- チェックリストで取組が不十分な項目について、具体的な対応策や相談先等がわかるようにしています。
- 障がいに対する理解促進のため、あいサポーター研修や企業内支援者研修等の本県独自の取組を紹介しています。
- 県内事業所の取組事例を掲載し、参考となるようにしています。

【掲載事業所】

- ・ごうぎんチャレンジドとっとり（鳥取市、銀行業）
- ・有限会社ドアーズ（倉吉市、飼料製造業）
- ・株式会社ゴール米子工場（米子市、錠前製造業）
- ・皆生タクシー株式会社（米子市、旅客運送業）
- ・日本海冷凍魚株式会社（境港市、食品製造業）
- ・株式会社サンライズさんこう（境港市、産業廃棄物処理業）

(4) 「ともに働く職場づくり」ガイドブック活用セミナーの開催

- ア 日時 令和5年3月10日（金）13:30～15:00（オンライン）
- イ 内容
 - ・障がい者が働きやすい職場づくりの重要性
 - ・ガイドブックの活用方法
 - ・チェックリストを活用したグループワーク



2 取組事例の紹介動画「ともに働く職場づくり～障がい者雇用の取り組み事例～」

ガイドブックで事例紹介した県内企業6社の取組について、より詳しい情報やガイドブックに掲載しきれなかった取組、働きやすい職場づくりのポイントを紹介する動画を作成しました。

- (1) 公開開始年月 令和5年2月
- (2) 公開方法 雇用政策課のウェブページに掲載

3 障がい者雇用企業見学会の開催

障がい者を多様な職種で雇用し、働きやすい職場づくりや相談体制の充実に取り組んでいる県外企業の見学会を初めて開催しました。

- (1) 日時 令和5年3月7日（火）
- (2) 見学先
 - （株）あしすと阪急阪神（大阪市北区）…雇用推進室を設置し、障がい者の支援体制を充実
 - （株）ダイキンサンライズ摂津（大阪府摂津市）…多様な職種（組立、修理、分別、製造、CAD等）で障がい者を雇用。積極的にキャリアアップに取り組む。
- (3) 参加者 13名（製造業、建築業、車両整備業等）

鳥取短期大学での観光人材育成に係る寄付講座の取組状況について

令和5年3月9日
雇用人材局産業人材課

鳥取短期大学と鳥取県は、地域の観光産業に求められる専門知識等を持った人材育成を目指し、令和3年度から寄付講座を開設し、既存の授業科目を組み合わせた「創造的観光人材育成プログラム」を実施しています。このうち、令和4年度の寄付講座の取組状況を報告します。

1 令和4年度の寄付講座取組状況について

(1) 1年生を対象にした講座

時期	概要
令和4年 8月	プレ講義「鳥取×観光フリースタイル2022～とりたんで観光を学ぶ!～」 ・鳥取砂丘の西側整備の取組やワーケーションの取組を学んだ。 ・既存授業科目「地域社会体験B」(おもてなし力向上研修や写真撮影ワークショップ)で学んだ内容を学生が発表した。 受講者: 学生9名、一般参加者4名(オンライン3名)
令和5年 2月	寄付講座「地域と観光Ⅰ」(観光産業の基礎知識等習得) 観光がもたらす影響、観光資源、近年の旅行動向、観光産業と商品サービス、観光政策などを事例研究も交えながら学んだ。 (体験学習ツアー) 三朝温泉での接遇研修、倉吉白壁土蔵群等 受講者: 学生9名、社会人5名

(2) 2年生を対象にした講座

時期	概要
令和4年 9月	寄付講座「地域と観光Ⅱ」(ポストコロナの新しい観光等の演習) 観光に対する新たな視点や企画力を学ぶため、「ワーケーション」をテーマにフィールドワークを実施し、各箇所のWeb記事と動画制作、成果発表を行った。 (フィールドワーク実施先) SAND BOX TOTTORI、鳥取砂丘周辺、一行平キャンプ場 受講生: 学生9名、社会人2名

2 令和4年度卒業生の進路について

(1) 主な進路

- ・観光事業を展開する食品製造事業者
- ・通信事業者、地元メディア、地元デザイン会社 等
「情報発信」や「地域資源の捉え方」などプログラムを通じて得た観光的視点を持って地域で活躍することが期待される。



SAND BOX TOTTORIにてワーケーションの取組を聞く様子

(2) 受講した学生の声 (主に「地域と観光Ⅱ」から)

- ・ワーケーションは施設の魅力を発信する方法のひとつ。いろいろな人たちが集まり関わっていくことで、新しい魅力が生まれると気が付いた。(学生)
- ・観光資源として、その土地にしかないものを引き出すという事が重要だという事を学んだ。(学生)
- ・(仕事をしていく上で) 動画編集やデザインのスキルが必要だと感じた。(学生)
- ・観光の幅の広さに改めて気づかされた。学んだ知識を仕事に活かしていきたい。(社会人)

【参考】創造的観光人材育成プログラムの概要 (鳥取短期大学国際文化交流学科)

(1) 実施期間 令和3年4月～令和8年3月 (5年間)

(2) 実施概要 地域の観光産業に求められるコミュニケーション能力、ホスピタリティ、クリエイティビティを持つ人材の育成を目指し、鳥取県の寄付により開設した寄付講座(「地域と観光Ⅰ」「地域と観光Ⅱ」)と鳥取短期大学の既存の科目を組み合わせ実施する。

(3) カリキュラム

対象者	学生向け	社会人向け
総時間数	195時間以上(10単位)	60時間以上(2単位以上)
構成 ※寄付講座は 学生、社会人 ともに受講が 必須	<ul style="list-style-type: none"> ■既存講義 「現代鳥取学」「多文化共生論」「地域交流」「交流とホスピタリティ」「地域社会体験A(地域産業)」「地域社会体験B(伝統文化)」 	<ul style="list-style-type: none"> ■観光英語コース 「基礎英会話」又は「資格英語演習」 ■異文化理解コース 「異文化コミュニケーション」又は「多文化共生論」 (2科目のうち1科目又は2科目)
	<ul style="list-style-type: none"> ■寄付講座 「地域と観光Ⅰ」「地域と観光Ⅱ」「プレ講義(プログラム導入講義)」 	

※社会人向けプログラムは学校教育法に基づく履修証明プログラムとして実施する。